



(JP tran) Ver1.2(20191118)





目次

1基本設定	4
 1.1給電を有効にする 1.2基準クロック源の選択 1.3 Syslog サーバの設定 1.4診断トレースの有効化 1.5 デフォルトゲートウェイを静的 IP アドレスに設定 1.6 SNTP サーバの設定 1.7ドメインネームサーバ (DNS)の設定 1.8 ネットワークインターフェイスの設定 	4 5 6 7 7 8 9
2 ISDN の設定	10
2.1 BRI インターフェイスの設定 2.2 相互運用性の設定 2.3 発呼回線情報の表示を有効にする	10 12 13
3 SIP 設定パラメータ	15
3.1 全ゲートウェイへのエンドポイントの登録 3.2 デフォルトの SIP サーバの設定 3.3 エンドポイント認証の設定 3.4 OPTIONS メソッドサポートの設定	15 15 16 17
4 オプションの設定パラメータ	18
4.1 デフォルトコーデックの有効化 4.2 DTP を使用した DTMF 転送の設定 - 帯域外 4.3 回答にあるペイロードタイプを有効にする 4.4 スターコードダイヤルマップの追加 4.5#キーダイヤルマップの追加	18 18 19 19 20
5 コールルータの設定	24
5.1 ハントを作成する 5.2 SIP ゲートウェイから宛先へのルートの作成	24 25





5.3 物理インターフェイスから SIP 宛先への経路の作成	26
6 サービスの再開	27
7 オンラインヘルプ	28
8 文書	29
9 著作権について	30





1基本設定

1.1 給電を有効にする

情報

注:あなたのユニットは給電をサポートしなければなりません。

ステップ

1) System/Hardware に行きます。

2) BRI Cards Configuration 表から、Power Feeding、ドロップダウンリストを選択し、Enable にします。

3) Apply をクリックします。

結果

ユニットは選択された BRI インターフェイスに電力を供給します。

BRI Ports Configuration		
Port	Power Feeding	
Bri1	Enable 💌	
Bri2	Disable 💌	

次の一歩

<u>クロック基準のソースを選択する(p.4)</u>

1.2 基準クロック源の選択

ステップ

1) System/Hardware に行きます。

2) Clock Reference Configuration 表からの選択提案のリスト、いくつかのクロック基準ソース。

3) Apply をクリックします。





結果

使用可能なテレフォニーカード毎に、ユニットタイプに応じて選択された Clock Reference ソースが、Clock Reference Configuration 表の Value フィールドに表示されます。 最初に選択されたソースは、クロック基準 として使用されます。 最初のものが使用できなくなった場合、次のものがリストされた順にフォールバックソースとして使用されます。 Clock Reference には、一度に1つのソースのみが使用されます。

Clock Reference Configuration			
	Value	Suggestion	
Clock Reference Source:	Telephony interface	Suggestion 🔻	

次の一歩

<u>Syslog サーバの設定</u>(p.5)

1.3 Syslog サーバの設定

ステップ

1) System/Event Log に行きます。

2) Syslog Configuration 表の Remote Host フィールドに、syslog サーバの IP アドレスを入力します。

注:Wireshark を使用してパケットを収集している場合は、Wireshark キャプチャを取得する PC の IP も使用できます。

3) Apply をクリックします。

結果

Syslog Configuration		
Remote Host:	syslog server IP address	
Technical Assistance Centre		
Diagnostic Traces:	Disable \vee	
Filter:	Edit	





1.4 診断トレースの有効化

情報

注: Diagnostic Traces を有効にするのは、問題をデバッグするときだけにしてください。それは装置全体の 性能を低下させます。

ステップ

1) System / Syslog に行きます。

2) Technical Assistance Center セクション(ページの一番下)で、Diagnostic Traces の横にある選択リスト から Enable を選択します。

結果

Technical Assistance Centre		
Diagnostic Traces:	Enable 🗸	
Filter:	Edit	

1.5 デフォルトゲートウェイを静的 IP アドレスに設定

ステップ

1) Network/Host に行きます。

- 2) Default Gateway Configuration 表で、IPv4 / Configuration Source の選択リストから Static を選択 します。
- 3) IPv4 / Default Gateway フィールドに、アップリンクネットワークインターフェイス用の Static Default Router として使用されている IP アドレスを入力します。
- 4) Default Gateway Configuration 表で、IPv6/Configuration Source 選択リストから Static を選択しま す。
- 5) IPv6/Default Gateway フィールドに、アップリンクネットワークインターフェイスの Static Default Router として使用される IP アドレスを入力します。
- 6) Apply を押します。

結果

指定されたアドレスは、現在のデフォルトのルーターアドレスとして使用されます。





Default Gateway Configuration		
IPv4		
Configuration Source:	Static	
Default Gateway:	IP address	
IPv6		
Configuration Source:	Automatic IPv6 🔽	
Default Gateway:		

1.6 SNTP サーバの設定

始める前に

利用可能な SNTP サーバがあることを確認してください。

ステップ

1) Network/Host に行きます。

- 2) SNTP Configuration 表の Configuration Source 選択リストから、 static を選択する。
- 3) 使用している各 SNTP サーバーの IP アドレスまたはドメイン名とポート番号を指定します。

注:ベストプラクティスは、インターネットサービスプロバイダーが提供するサーバを使用してから、地理的領 域に近い別のネットワークのサーバを補完することです。例:time.nist.gov(米国)、ntp4.sptime.se(スウェー デン)、time1.isu.net.sa(サウジアラビア)、ntp.nict.jp(日本)、time.google.com(世界中)、pool.ntp.org または その地域のサーバプールのいずれか(詳細については https://www.ntppool.org/を参照してください)。

4) 必要に応じて、表示されている Synchronisation Period のデフォルト値を変更します。
5) 必要に応じて、表示された Synchronisation Period on Error のデフォルト値を変更します。
6) Apply を押します。

結果

SNTP のホスト名とポートは、Network / Status の下の Host Status 表に表示されます。





SNTP Configuration	
Configuration Source:	Static
Primary SNTP:	address of primary SNTP server
Secondary SNTP:	address of secondary SNTP server
Third SNTP:	address of third SNTP server
Fourth SNTP:	address of fourth SNTP server
Synchronization Period:	1440
Synchronization Period On Error:	60

1.7 ドメインネームサーバ(DNS)の設定

始める前に

パブリックDNS サーバを使用することは可能ですが、インターネットサービスプロバイダーにDNS サーバ の名前を尋ねることもできます。

ステップ

1) Network/Host に行きます。

2) DNS Configuration 表で、Configuration Source 選択リストを形成し、Static を選択します。

3) 使用されている DNS ごとに、DNS の IP アドレスを入力します。

4) Apply をクリックします。

結果

 DNS Configuration		
Configuration Source:	Static	
Primary DNS:	IP address of primary DNS server	
Secondary DNS:	IP address of secondary DNS server	
Third DNS:	IP address of third DNS server	
Fourth DNS:	IP address of fourth DNS server	





1.8 ネットワークインターフェイスの設定

情報

ネットワークインターフェイスを構成する場合、Media5では、ネットワークインターフェイスの動作に関連する メッセージを受信するために、syslog クライアントを適切に構成して有効にすることをお勧めします。 syslog クライアントへのアクセスに使用するインターフェイスも適切に有効にする必要があります。

ステップ

1) Network/Interfaces に移動します。

重要:ネットワークインターフェイスを設定するとき、特に管理のためにユニットに接続するために使用される ネットワークインターフェイスを設定するときは、細心の注意を払ってください。ユニットへの接続に使用する ネットワークインターフェイスを無効にしたり削除したりしないでください。また、ユニットの管理インターフェー スを常に連絡可能なインターフェースに設定するよう注意してください。

2) Network Interface Configuration 表で必要に応じてフィールドに入力します。

- 3) Activation ドロップダウンリストから Enable を選択します。
- 4) Apply をクリックします。





2 ISDN の設定

2.1 BRI インターフェイスの設定

始める前に

BRI 電話を使用している必要があります。

ステップ

1) ISDN / Basic Rate Interface に行く。

2) Select Interface ドロップボックスから、Bril を選択します。

3) Interface Configuration 表で、Endpoint Type を NT にセットする。

4) Connection Type を Point to Multipoint に設定します。

5) インバンド DTMF ダイヤルを Enable に設定します。

6) Exclusive B Channel Selection を設定するために Enable にします。

7) 起動時に Send Restart を設定します。

8) 他のすべてのパラメータをデフォルト値のままにします。

9) Apply To The Following Interfaces から、設定を適用するインターフェイスを選択します。

10) Apply をクリックします。

結果





Basic Rate Interface

Select Interface: Slot2/Bri1 🗸

Interface Configuration		
Endpoint Type:	NT 🗸	
Clock Mode:	Auto 🗸	
Monitor Link State:	Enable 🗸	
Connection Type:	Point To Multipoint 🗸	
Signaling Protocol:	DSS1 🗸	
Network Location:	User	
Preferred Encoding Scheme:	G.711 a-Law 🗸	
Fallback Encoding Scheme:	G.711 u-Law 🗸	
Channel Allocation Strategy:	Ascending 🗸	
Maximum Active Calls:	0	
Signal Information Element:	Disable 🗸	
Inband Tone Generation:	Enable 🗸	
Inband DTMF Dialing:	Disable 🗸	
Overlap Dialing:	Enable 🗸	
Calling Name Max Length:	34	
Exclusive B-Channel Selection:	Enable 🗸	
Sending Complete:	Enable 🗸	
Send Restart On Startup:	Enable 🗸	
Link Establishment:	On Demand 🗸	
Hook-Flash Keypad:		
Accepted Status Causes:		
Accepted Progress Causes:	1-127	
Send Isdn Progress:	Send All 🗸	
Send Progress Indicator IE:	Send All	
TEI Negotiation:	Link Up 🗸	
Default TON for Calling Party Number IE:	Unknown	
Default NPI for Calling Party Number IE:	Unknown 🗸	
Default PI for Calling Party Number IE:	Presentation Allowed	
Default SI for Calling Party Number IE:	Context Dependent	
Default TON for Called Party Number IE:	Unknown	
Default NPI for Called Party Number IE:	Unknown	
Notification User Suspended:	Ignore V	

Apply To The Following Interfaces			Check All	Uncheck All	
Slot2/Bri0	✓ Slot2/Bri1	Slot2/Bri2	Slot2/Bri3	Slot2/Bri4	





2.2 相互運用性の設定

ステップ

1) ISDN / Interop に行く。

2) Interop Configuration 表では、すべてのフィールドに対して Enable を選択します。

3) Apply To The Following Endpoints 表で、相互運用性設定を適用するインターフェイスを選択します。

4) Apply をクリックします。

注:コール確立で問題が発生した場合は、パラメータを1つずつ無効にしてください。

結果

Interop

Select Interface: Slot2/Bri0 🗸

Interop Configuration		
Progress Indicator In Setup:	Enable 🗸	
Progress Indicator In Setup Ack:	Enable 🗸	
Progress Indicator In Call Proceeding:	Enable 🗸	
Progress Indicator In Progress:	Enable 🗸	
Progress Indicator In Alerting:	Enable 🗸	
Progress Indicator In Connect:	Enable 🗸	
Maximum Facility Waiting Delay (ms):	0	
Use Implicit Inband Info:	Enable 🗸	
Call Proceeding Delay (ms):	0	
Calling Name Delivery:	Signaling Protocol 🗸	
Allow TEI Broadcast in Point-to-Point:	Enable 🗸	

Apply To The Fo	ollowing Interfa	Check All	Uncheck All			
Slot2/Bri0	Slot2/Bri1	Slot2/Bri2	Slot2/Bri3	s	ilot2/Bri4	





2.3 発呼回線情報の表示を有効にする

ステップ

- 1) ISDN / Services に行きます。
- 2) Select Interface からドロップダウンメニューで、あなたが設定を望むインターフェイスを選択します。
- 3) Services Configuration 表で、Facility Services を Enable に設定します。
- 4) Calling Line Information Presentation を有効にします。
- 5)[MSN]フィールドに、コールが SIP 側から着信したときに許可される番号を入力します

注:適切な構文を適用するには、Show Help を参照してください。

6) Apply To The Following Interfaces から、構成を適用するインターフェイスを選択します。
7) Apply をクリックします。

結果

ISDN ファシリティメッセージのサポートが有効になります。





Services

Select Interface: Bri1 V

Services Configuration	
Facility Services:	Enable 🔻
Calling Line Information Presentation:	Enable 🔻
Calling Line Information Restriction:	Disable 🔻
Calling Line Information Restriction Override:	Disable T
Connected Line Identification Presentation:	Disable 🔻
Connected Line Identification Restriction:	Disable T
Connected Line Identification Restriction Override:	Disable T
Outgoing Notify:	Disable T
Maintenance Service Call Termination:	Graceful 🔻
Date/Time IE Support:	Disable 🔻
AOC-E Support:	No
AOC-D Support:	No
Call Rerouting Behavior:	Unsupported T
MSN:	MSN 1, MSN 2, MSN 3





3 SIP 設定パラメータ

3.1 全ゲートウェイへのエンドポイントの登録

ステップ

1) SIP / Registration に行きます。

注:2 つ以上のエンドポイントが同じユーザー名を持つ場合、そのユーザー名で単一の登録要求また はサブスクリプション要求、あるいはその両方が実行されます。

2) 登録が必要な各エンドポイントについて、次の2と3の手順を繰り返します。

- 3) Register 選択リストから Enable を選択します。
- 4) Gateway Name 選択リストから、各エンドポイントに対して All を選択します。
- 5) Apply and Refresh をクリックします。

結果

Endpoints	Endpoints Registration						
Endpoint	User Name	Friendly Name	Register	Messaging	Gateway Name		
Endpoint 1	user_name1		Enable 🔻	Disable ¥	all 🔻		
Endpoint 2	user_name2		Enable 🔻	Disable 🔻	all 🔻		
Endpoint 3	user_name3		Enable 🔻	Disable 🔻	all 🔻		
Endpoint 4	user_name4		Enable 🔻	Disable 🔻	all 🔻		

3.2 デフォルトの SIP サーバの設定

始める前に

ステップ

1) SIP/Servers に移動します。

2) **Default Servers** 表の **Registrar Host** フィールドに、レジストラーホストの IP アドレスまたは FQDN とポ ートを入力します。

注::0は 5060 デフォルトポートを表します。 FQDN を使用する場合、:0を使用すると、Mediatrix ユニットは DNS SRV 要求を発行します。





3) Proxy Host フィールドに、プロキシホストの FQDN とポートを入力します。

注:0は5060デフォルトポートを表します。FQDNを使用する場合、:0を使用すると、Mediatrix ユニットはDNS SRV 要求を発行します。

4) アウトバウンドプロキシを使用している場合は、Outbound Proxy フィールドに IP アドレスとポートを 入力します。

5) Apply をクリックします。

6)ページ上部にある Restart required services をクリックします。

結果

特に指定がない限り、すべてのゲートウェイはデフォルトの SIP サーバを使用します。

Servers

Default Servers		
Registrar Host:	FQDN or IP address and port	
Proxy Host:	FQDN or IP address and port	
Messaging Server Host:		
Outbound Proxy Host:	IP address and port	

3.3 エンドポイント認証の設定

ステップ

1) SIP/Authentication に移動。

2)ページ下部にある Edit All Entries をクリックします。

3) Authentication 表の Criteria 選択リストから、登録が必要なすべてのエンドポイントについて Endpoint を選択します。

4) Endpoint selection リストから、各エントリに関連する FXS ポートを選択します。

5) Realm フィールドから、指定されたレルムを入力し、Validate Realm 選択リストから Enable を選択しま

す。Realm が指定されていない場合は、このフィールドを空白のままにして、Validate Realm 選択リスト から Disable を選択します。

6) User Name フィールドにおいて、エントリごとに SIP ユーザ名を入力します。

7) Password フィールドに、各エントリに適切なパスワードを入力します。

8) Apply and Refresh Registration をクリックします。

結果

エンドポイントが登録されます。





Authen	lication								
Priority	Criteria	Endpoint	Gateway	Username Criteria	Validate Realm	Realm	User Name	Password	
1	Endpoint 💌	Endpoint 1 🖂	~		Disable 🗸		SIP user_name	******	
2	Endpoint 💌	Endpoint 2 🗸	×		Disable 🗸		SIP user_name	******	
3	Endpoint 💌	Endpoint 3 💌	×		Disable 💌		SIP user_name	******	
4	Endpoint 💌	Endpoint 4 💌	×		Disable 🗸		SIP user_name	•••••	

3.4 OPTIONS メソッドサポートの設定

情報

注:この手順は、サーバが 200 OK のみを受信するように設定されている場合に必要です。 注:これはすべての SIP サーバでサポートされているわけではありません。この機能は、ほとんどの使用 例で必須ではありません。

ステップ

1) SIP/Interop に移動します。

2) SIP Interop テーブルの OPTIONS Method Support 選択リストから、Always 200 OK を選択します。 3) Apply をクリックします。

結果

ユニットは受信した SIP OPTIONS メッセージに対して常に 200 OK と応答します(キープアライブ)。

SIP Interop		
Secure Header:	Disable 🗸	
Default Username Value:	Anonymous 🗸	
OPTIONS Method Support:	Always 200 OK 🗸	
Ignore OPTIONS on no Usuable Endpoints:	Disable 🗸	
SIP URI User Parameter Value:		
Behavior on Machine Detection:	Re-INVITE on Fax T38 Only	
Registration Contact Matching:	Strict 🗸	
Transmission Timeout:	32	





4オプションの設定パラメータ

4.1 デフォルトコーデックの有効化

ステップ

1) Media/Codecs に行く。

- 2) Codec 表では、目的のコーデックを選択して Enable / Disable にします。
- 3)高度なコーデック設定の為に 2をクリックする。

注:2つ以上のコーデックを有効にする場合、詳細オプションを選択して優先順位を変更できます。

4) Apply をクリックします。

結果

Codec	Voice	Data	Advanced	
G.711 a-Law	Enable 🔻	Enable 🔻	1	
G.711 u-Law	Enable 🔻	Enable 🔻	× .	
G.726 16Kbps	Disable 🔻		1	
G.726 24Kbps	Disable 🔻		× .	
G.726 32Kbps	Disable 🔻	Disable 🔻	1	
G.726 40Kbps	Disable 🔻	Disable 🔻	× .	
G.729	Disable 🔻		1	
т.38		Disable 🔻	× .	
Clear Mode	Disable 🔻	Disable 🔻	1	
Clear Channel	Disable 🔻	Disable 🔻	× 1	
X CCD	Disable 🔻	Disable 🔻	1	

4.2 DTP を使用した DTMF 転送の設定 - 帯域外

ステップ

1) Media / Misc に行きます。

2) DTMF Transport 表において、Out-of-Band using RTP に Transport Method を設定。

3) SIP Transport Method フィールドで、RTP プロトコルを介して DTMF を送信するために使用される方法 を選択します。





4) Apply をクリックします。

結果

DTMF Transport	
Transport Method:	Out-of-Band using RTP T
SIP Transport Method:	Info DTMF Relay 🔻
Payload Type:	96

4.3 回答にあるペイロードタイプを有効にする

情報

DGW Web ページからこのパラメータにアクセスすることはできません。コマンドラインインターフェイス(CLI) を使用する必要があります。

ステップ

1) CLI で、「sipEp.interopUseDtmfPayloadTypeFoundInAnswer = 1」と入力します。

注:sipEp.interopUseDtmfPayloadTypeFoundInAnswer パラメータの詳細については、DGW Configuration Guide か <u>リファレンスガイド</u>を参照するか、又は help とタイプして 「sipEp.interopUseDtmfPayloadTypeFoundInAnswer」と入力してください。

2) Enter をクリックしてください。

結果

設定された Payload Type の代わりに、回答にある Payload Type (Media/ Misc/DTMF Transport)が使用されます。

4.4 スターコードダイヤルマップの追加

情報

Mediatrix ユニットのダイヤルマップ*キーは、デフォルトでは無効になっています。

ステップ

1) Telephony/DTMF Maps に行く。

2) Allowed DTMF Map 表では、必要に応じてフィールドに入力します。





注:* xx - コード用、例えば* 69

結果

DTMF マップ構成の詳細については、ドキュメントポータルで公開されている最新の Software Configuration Guide を参照してください。

Index Enable Apply To Endpoints	Suggestions DTHF Hap	Transformation	Target Emergency
1 Enable . Unit .	Euppertus		Disable 💌

4.5#キーダイヤルマップの追加

情報

Mediatrix ユニットのダイヤルマップ#キーは、デフォルトでは無効になっています。

ステップ

1) Telephony/DTMF Maps に行く。

2) Allowed DTMF Map 表では、必要に応じてフィールドに入力します。

注:x.# - 短縮ダイヤルの場合(267#など)、#キーを押すとすぐに電話がかけられます。

結果

DTMF マップ構成の詳細については、ドキュメントポータルで公開されている最新のソフトウェア構成ガイドを参照してください。

Allowed DTHF Hap							
Index Enable	Apply To	Endpoints	Suggestions	OTHE Mag	Transformation	Target	Emergency
t Enable	Unit 🖬			11 F.*	(e)		Disable







5.1 ハントを作成する

ステップ

1) Call Router/Route Config に移動。

2) Hunt 表において、

・既存のハントと同じ行に行き+をクリックして、上に新しいハントを追加します。

・表の下部に行き+をクリックして、表の最後にハントを追加します。

注:最大 40 個のハントを作成できます。

3) Configure Hunt 表の Name フィールドに名前を入力します。

- 4) Destinations フィールドの横にある Suggestion 選択リストから、1 つまたは複数の宛先を選択します。
- 5) Causes フィールドの横にある Suggestion 選択リストから、以下に関連するあなたの状況関連する原因を選択します。
- 6)別のハントグループを作成するには、2_から5_へ手順を繰り返します。 注:最大40個のハントグループを作成できます。
- 7)保存をクリックします。

結果

ハントはルートで使用することが可能です。

Configure Ne	Configure New Hunt					
	Value	Suggestion				
Name	Name					
Destinations	Select Destination	Suggestion V				
Selection	Sequential 🗸					
Timeout (seconds)	0					
Causes	Select Causes	···· Suggestion ····				
Config Status						





5.2 SIP ゲートウェイから宛先へのルートの作成

ステップ

- 1) Call Router/Route Config に移動します。
- 2) Routes 表では.+.クリックしてください。
 - ・既存のルートと同じ行にある+をクリックして、上に新しいルートを追加する。
 - ・表の下にある+をクリックして、表の最後にルートを追加します。
 - 注:最大 40 のルートを作成できます。
- 3) Configure Route 表で、Sources フィールドの選択リストから SIP ゲートウェイを選択します。
- 4) 必要に応じて、Destination フィールドの選択リストから、インターフェースまたはハントグループを選択 します。

注: Signaling Properties、Transformations、および Criteria Property フィールドは空のままにします。 5) Save をクリックします。

結果

新しいルートが作成され、Routes 表に表示されます。

Configure New Route	Configure New Route							
	Value	Suggestion						
Sources	Sip Gateway	···· Suggestion ···· v						
Criteria Property	None							
Criteria Rule		Suggestion 🗸						
Transformations		Suggestion 🗸						
Signaling Properties		Suggestion 🗸						
Destination	Destination	Suggestion 🗸						
Config Status								





5.3 物理インターフェイスから SIP 宛先への経路の作成

ステップ

- 1) Call Router/Route Config に移動。
- 2) Routes の表では、+をクリックしてください。
- 3) Configure Route 表で、Sources フィールドの選択リストからインターフェイスを選択します。
- 4) Destination フィールドの選択リストから、SIP Gateway または SIP ハントグループを選択します。

注: Signaling Properties、Transformations、および Criteria Property フィールドは空のままにします。 注: 最大 40 のルートを作成できます。

5) Save をクリックします。

結果

Configure New Route			
	Value	Suggestion	
Sources	Interface 	Suggestion 🗸	
Criteria Property	None		
Criteria Rule		Suggestion 🗸	
Transformations		··· Suggestion ··· 🗸	
Signaling Properties		Suggestion 🗸	
Destination	Sip-Gateway	Suggestion 🗸	
Config Status			







ステップ

1) System/Services に行きます。

2) Restart required services 表で、Restart required services をクリックします。







フィールドとボタンの意味がよくわからない場合は、Web ページの右上隅にある Show Help をクリックします。 有効にすると、オンラインヘルプを提供するフィールドとボタンが緑色に変わり、それらにカーソルを合わせ ると説明が表示されます。





8 文書

Mediatrix ユニットには、徹底的な文書一式が付属しています。

Mediatrix のユーザー文書は、<u>ドキュメンテーションポータル</u>にあります。

探している情報を明確に提示するために、いくつかの種類の文書が作成されました。私たちの文書が含ま れます:

・リリースノート(Release notes):

各 GA リリースで生成されるこの文書には、既知および解決済みの問題が含まれています。

それはまた、ソフトウェアの問題変更点とリリースに含まれる新機能についても概説します。

・設定メモ(Configuration notes):

これらの文書は、特定のユースケースの構成を容易にするために作成されます。これらは、ほとんどのユ ーザーが実行する必要があると考えられる構成の側面に対応しています。ただし、場合によっては、顧客 から質問を受け取った後に構成メモが作成されます。これらは、使用するパラメータの値を詳述する標準 的な段階的な手順を提供します。これらは検証の手段を提供し、いくつかの概念的な情報を提示します。 構成ノートは、構成の側面を通してユーザーをガイドするために特別に作成されます。

•技術速報(Technical bulletins):

これらの文書は、ファームウェアアップグレードの実行など、特定の技術的アクションの構成を容易にするために作成されます。

・ハードウェアインストレーションガイド(Hardware installation guide):

ユニットを安全かつ適切に設置する方法に関する詳細な手順を提供します。カードのインストール、ケーブ ル接続、および管理インターフェイスへの最初のアクセス方法に関する情報を提供します。

ユーザーガイド(User guide):

ユーザーガイドでは、ユニットの構成をニーズに合わせてカスタマイズする方法について説明しています。 この文書はタスク指向ですが、ユーザーが各タスクの目的と影響を理解するのに役立つ概念的な情報を提 供します。ユーザーガイドには、管理インターフェイスでTR-069を構成できる場所と方法、ファイアウォール を設定する方法、管理インターフェイスで利用できないパラメータを構成する CLI の使用方法などの情報が 記載されています。

リファレンスガイド(Reference guide):

この包括的な文書は、上級ユーザー向けに作成されています。 Mediatrix ユニットのすべてのサービスで 使用されるすべてのパラメータの説明が含まれています。 たとえば、特定のパラメータを構成するスクリプ ト、サービスによって送信される通知メッセージ、またはルールセットの作成に使用されるアクションの説明 があります。 この文書には、辞書などの参照情報が含まれており、段階的な手順は含まれていません。







著作権©2017 Media5 Corporation。

この文書は Media5 Corporation に所有権がある情報を含みます。

Media 5 Corporation は、この文書およびその知的財産のすべての権利を留保します。

それが含んでいて表現している文書と技術およびノウハウ。

この出版物の全部または一部を複製することはできません。

Media5 Corporation による事前承認書

Media5 Corporation は、この出版物を改訂し、いつでも変更を加える権利を留保します。

そのような改訂や変更について、いかなる個人や組織にも通知する義務はありません。

